

「おとこのこと」

作・藤本瑞樹

本作品は、宮村耳々(ジジシ)と森岡光(ピッピ)というふたりの女優のために書きま
した。

本作品の著作権は、合同会社キートンケイブス0050505050に帰属します。

(ないとは思いますが)上演の際のお問い合わせなどは、キートンケイブス0050505050までお願
いします。

#1。ピッピ。

これは、ピッピがジジシの家に転がり込んでからいなくなるまでのおはなし
(長い1日かもしれないし、何日間かもしれないし、何年間かもしれない)。
始まりと終わりだけが決まっっていて、あとの話はいつ行われているのかわ
からない。(#1、12、13以外はどの順序で演じられても構わない)

ジジシの部屋。

部屋は色とりどりに散らかっている。

ジジシは部屋でひとりで部屋にいてる。

【登場人物】

ジジシ 部屋でひとり気ままに過ごしている

ピッピ 「二度と戻らない旅」に出る予定

とどろきに、ピッピが大きな荷物を持ってやってくる。

ピッピはチャイムを鳴らす。

ピッピ。ポンポン。

ジジシ ……。

ピッピ。ポンポン。ポンポン。ポンポン。ポンポン。ポンポン。

ジジシ ……。

ピッピ。ポンポン。ポンポン。

ジジシ ……(はい。)ドアを開ける

ピッピ。ちゅ。

ジジシ ……。

ピッピ。ちゅ。ちゅ。

ジジシ ……。

ピッピ。ちゅ。ちゅ。ちゅ。

ジジシ ……。突然。

ジジシの部屋。
まるでおもちゃ箱をひっくり返したかのように散らかっている。

おとこのこと

居心地いいー。
 悪かったな。
 あはは部屋汚ねー。
 そっぴゃなへてお。
 わかってんじやん。
 見りゃわかるよ。
 荷物。
 それ。
 これっ。
 なにそれ。

ピッピが大きな荷物を持っているのに気づいて

お邪魔します。
 いいけど、あ、あがって。
 まままいいからいいから。
 なにまままっつて。
 ままま。
 なんでもた急に。
 遊びに来たよ。
 どうしたの突然。
 ひさしぶりよ。
 ひさしぶりよ。
 シジュー。(抱き合う)
 ……ピッピ。
 へへへー。

旅。
 旅。
 旅だね、出たよっつていいし。
 (抱きつかれて)おおっつて。
 シジューそのうっつ干渉していいし好きよ。
 (へへへ)抱きつかれて。
 まあいいけどね。
 ままま。
 家出して、子どもじゃなんだからよあめ。
 家出かもね、うん、家出かも。
 あっ。
 あー、でも家出かもね。
 じゃあなんなの。
 違うよ。
 えーなにー？ 家出っ。
 気がすむまでかな。
 何泊する気。
 んー、まあねー。
 いいけど。え？ それでその荷物？
 しぼらく泊めてよ。シジューの家。
 へっ。
 泊めてよ。
 なに。
 へへへ。
 じゃなくてさ。なにその大荷物。
 最っ高。
 でしょ。

ジジ どのに。外国？

ピピピ ー。

ジジ なに？ 決めてないの？

ピピピ 決めてるよ。

ジジ じゃあどー。

ピピピ ままま。

ジジ まあいいけど。

ピピピ そゆ干渉してこないと好き。

ジジ それさつきも聞いた。

ピピピ なんかない？

ジジ なんかって？

ピピピ なんか飲み物。

ジジ あー。

ピピピ ファンタとかじゃなくて。

ジジ わかってるよ。

ピピピ さすが。

ジジ (カルピスの原液を出す)

ピピピ つてカルピスかーい。それも原液。

ジジ ファンタじゃないって言ったじゃん。

ピピピ アルコールでしようが。アルコールとさつき。

ジジ わかってるよ。

ピピピ わかってるのもわかってるよ。

ジジ へへへー。

ピピピ へへへー。

ジジ ビールでいい？

ピピピ ビールあんの？

ジジ ビールじゃないやつだけど。

ピピピ いいよ。

ジジ ほれ。

ピピピ ありがとう。

ジジ じゃ、かんぱーい。

ピピピ かんぱーい。

二度と戻らない旅

二度と戻らない旅に出るの。
2回言った。

あなたが「はあ？」とか言うからでしょ。

言うでしょ。

驚いた？

呆れた。

なんですよ。

二度と戻らない旅ってあれでしょ、最近流行ってる、

うん。

ユー・ト・ピアを探すっていう、

そう、それ。

……バツカじゃないの。

バツカじゃないよ。

バツカだよ。

バツカじゃないよ。

バカだよバカ。スーパーバカ。なに。いい歳かいて「二度と戻らない旅」に出るのーっして。

真剣に考えたんだよ。

真剣に考えてそれだからバカだったんだよ。蹴る(蹴る)

蹴るなよ。

(手をぶんぶん振って)だっつて(ぶんぶん)手が届かないんだもん。

じゃあ仕方ない。蹴るなよ。

だろっ

だるじゃないよ。友達を蹴るなよ。

友達じゃねーよバカ。

あつたつ。

親友だろ。

……シシシ……。

……。

シシシ。(抱きしめ)

……。

なにやっつてんだろわたしたち。

ね。

シシシシシシ高いな。

……。

うそ、わたしシシシシ高いっ

高いよ。

うそ。

これでテンション低いとか言ったら怒られるよ。

誰。

なんか……テンション低いひとたち。

テンション低いひとたちって怒るのかなっ

怒るでしょ。そりゃ。

テンション低いのっ

あー。

偏見か。

偏見だよ。テンション低くてもひとは怒るよ。

そっか。

じゃないよ、なに話そらしてんだよ。

話それたっけ？

おとこのこと

シジ 旅のはなし。
ピッピ ああ、
シジ なに二度と戻らない旅って。
ピッピ そこ戻んのか。
シジ 戻るよ。
ピッピ 戻るよな。
シジ なんなの。
ピッピ ままま。
シジ まままじゃなくて。
ピッピ まままじゃないかあー。
シジ ……なんかあったの？
ピッピ なんかって？
シジ なんかってなんかわかんないけどさ、
ピッピ ？
シジ なんか、悩み事とか。
ピッピ ないよ。
シジ ないの？
ピッピ ないよ。
シジ ないんだ。悩みなさそうだもんね、あんた。
ピッピ ひどい。わたしだって悩みくらいあるよ。
シジ たよえほっ。
ピッピ ……
シジ ないんじゃない。
ピッピ ないのか？
シジ ないない。
ピッピ よかったー。わたし悩まないんだー。

シジ すごい。あたま悪そう。
ピッピ へへへー。
シジ 笑ってる。
ピッピ バッカでーす。
シジ さっきバカじゃないっつってたのに。
ピッピ バカでしたー。
シジ バカでしたー。
ピッピ へへへー。
シジ それで二度と戻らない旅に出るなんて言い出したのか。バカだから。
ピッピ 言い出したのだ。バカだから。
シジ バカか。
ピッピ バカじゃないよ！なんだよさっきからバカバカって！
シジ ……。
ピッピ またそんな人をバカにしたような目で見て！
シジ バカを見るような目で。
ピッピ 強いて言えば、
シジ ？
ピッピ 退屈をぶつつぶしたくなったの。
シジ は？
ピッピ わたしはね、気付いてしまったんだよ。日常が退屈の連続だったこと。
シジ へー。
ピッピ へー。へーであんた。
シジ 日常が退屈の連続じゃいけないわけ？
ピッピ そういつわけでもないけどなあ。
シジ じゃあいいじゃん。
ピッピ わたしにはそれが耐えられなくなったんだ。

おとこのこと

ジジ ほうお。

ピピピ だってさあ、あんたさあ、いろいろにさあ、いつまでも住んでよ、こんな狭う苦しいとこにさあ、

ジジ さっき最高って言うってたじゃん。

ピピピ 言ったけどさあ。言ったけど。そういう意味じゃなくて。どう言えばいいのかな。

ジジ バカだから語彙が少ないもんなー。

ピピピ バカバカ言うなよ。

ジジ バーカ。

ピピピ ブース。

ジジ あっ、下っ。

ピピピ うそ。ジジかわいい。かわいいてか美人。

ジジ ピピピもかわいいよ。

ピピピ ジジ〜。

ジジ ピピピ〜。

ピピピ わたしたちバカみたいじゃね？

ジジ あんたは確実にバカみただよ。

ピピピ ……話を戻すぞ。

ジジ うん。

ピピピ まあとこかく、家のなかとか、ちょっとそのへんとか、そういう狭い範囲で満足するのはね、わたしなんか違うと思っつようになったんだ。

ジジ ほっ。

ピピピ わかるっ。

ジジ まあ、言わんとすめるとは。

ピピピ じゃなくて、そういう感覚。

ジジ まあ、わからんでもない。

ピピピ もうさ、どこ行ったって危険なわけじゃない、いまの世の中。安心できるところなんてないわけよ。

ジジ ウチは安全だよ。

ピピピ ーだからさ、ウチしか安全じゃないわけよ逆言って。

ジジ そうだね。

ピピピ そしたらさ、もうどこにいってもいいよまたなって思っつ。

ジジ で、

ピピピ で、

ジジ 旅に出ようよ。

ピピピ そう。

ジジ はあ……。

ピピピ あっ、バカにしてる。

ジジ してないしてない。

ピピピ してるよ。

ジジ してないけど、なんていうか、

ピピピ なに。

ジジ ま、ま、いいんじゃないの？

ピピピ でよ。

ジジ あんたららっ。

ピピピ でよ。

ジジ 了解です。

ピピピ そのっ、そのっ、そのっのっのっのっ。

ジジ ああ、

ピピピ なにっ。

ジジ わたしあんたのそういうっのっのっが好きなんだ。

ピピピ えっ、なにがっ。

ジジ あんたのそのそいうと」。他人からなにもほしがらないと」。ろ。

ヒッヒ エーそうかなー。

ジジ がんばってとかやめなよとか、そいうの求めてたんじゃないんでしょ？

ヒッヒ そうだね。

ジジ ただ肯定すればいいだけだから楽々。

ヒッヒ あはは。

ジジ なるほどね々。

最後

ピッピ。 てくてくて、最後です。

ピッピ。 最後か。

ピッピ。 最後だ。

ピッピ。 帰ってこないの？

ピッピ。 帰ってこないよ。二度と戻らない旅だもん。

ピッピ。 そっかー。

ピッピ。 そうだー。

ピッピ。 ま、あんたらしいよ。

ピッピ。 ありがと。

ピッピ。 いつ行くの？

ピッピ。 決めてないけど、機が熟したら。

ピッピ。 いつ機が熟すの。

ピッピ。 わっかんない。明日かもしれないし、1週間後かもしれないし、来年かも。

ピッピ。 えー、来年までいるつもり？

ピッピ。 だってもう家引き払ったし。

ピッピ。 え、ママジでっ

ピッピ。 ママジで。

ピッピ。 ママジよ。

ピッピ。 だって二度と戻らない旅に出るのに家借りとか意味ないじゃん。

ピッピ。 まあそっただけど。珍しく賢いじゃん。

ピッピ。 だろっ

ピッピ。 すっごい。バカにされたことに気づいてない。

ピッピ。 えっ？ バカにしたの？

ピッピ。 ううん。

ピッピ。 というわけですばらくお世話になりまーす。

ピッピ。 まあいいけど。

ピッピ。 あんたのそういうところが好き。

ピッピ。 。

ピッピ。 シジ。 。

ピッピ。 飲むか。

ピッピ。 飲む飲む。

ピッピ。 言ってももうウチそんなにお酒ないんだよね。

ピッピ。 買いに行こ。

ピッピ。 おお。りね。

ピッピ。 えっなんで。

ピッピ。 しばらくわたしに二厄介になるんだから、当然だろ。

ピッピ。 はーい。よし、じゃあコンビニ行くか。

ピッピ。 こんな時間にコンビニで買ってるかな？

ピッピ。 やってるでしょ。

ピッピ。 ……やってないかも。

ピッピ。 もー、早く行かないと開いてるもんも閉まっちゃうよー。

ピッピ。 そうだね。

ピッピ。 わたし先に行くよ。

ピッピ。 うん。

ピッピ。 あんたもちゃんと来るんだよ。

ピッピ。 ……わかってるって。

おとこのこと

ジジ
ヒヒ
ヒヒ
うん。

ジジ
そうだらうけど。
そうだよ。

だれかと

ジジ ……あのね、

ピッピ んー？

ジジ わたしね、……………

ピッピ なに？

ジジ 結婚するかもしれない。

ピッピ えー……！

ジジ わからないけど。

ピッピ 誰と誰と誰と誰と

ジジ ピッピの知らないひとだよ。

ピッピ どんなひとどんなひとどんなひと

ジジ やさしいひと。

ピッピ そっか。

ジジ うん。

ピッピ よかったじゃん。

ジジ うん。

ピッピ えー、ジジがー、結婚があー。

ジジ まだわかんないんだよ。わかんないけど。

ピッピ でもそっとういっつ相手がいるって「ト」でじゃん。

ジジ うん。

ピッピ それは「ト」だよ。

ジジ そうかな。

ピッピ そうだよ。

ジジ うん、まあ、……悪「ト」でじゃんね。

ピッピ そっだよ。

ジジ うん。

ピッピ えーじゃあさあ、これあげるよこれ。

ジジ なに？

ピッピ バナナ。

ジジ バナナ！

ピッピ 食べな。

ジジ なんて。

ピッピ ジジ好きだったじゃん。

ジジ バナナ？

ピッピ 小学生のとき。

ジジ あー、

ピッピ 4年生くらいのとき。

ジジ うん。

ピッピ 一時期毎日学校にバナナ一房持ってたとき、配ってたじゃんみんなに。

ジジ バナナの美味しさを広めようと思った時期だ。

ピッピ だから。

ジジ バナナを。

ピッピ うん。

ジジ えー、あ、ありがとう。

ピッピ きみと好きなひとが100年続きますよっつっつな。

ジジ うわー鬼束ちひろだー。

ピッピ 匂香だよ。

ジジ 一青窈だろ。

ピッピ え、っそ。

ジジ ほんとに。

ピッピ 中島美嘉じゃない？

ジジ　もういいよ。(ニジ)ニ

ふたり　ありがとうございます。

ヒッヒ　すこい息びったりじゃない私たち。

ジジ　漫才コンビみたいだった。

ヒッヒ　漫才で。

ジジ　わたしはほんと、相性いいよね。

ヒッヒ　うん。わたしもそう思う。

ジジ　漫才師になるっか。

ヒッヒ　えー、わたし旅に出るのに。

ジジ　そういう設定だったね。

ヒッヒ　設定で。

ジジ　いつ出るの。

ヒッヒ　わかんないけど。

ジジ　旅に出るまで漫才師になろう。

ヒッヒ　やだよ。なんないよ。

ジジ　どうもー、ジジです。

ヒッヒ　ヒッヒです。

ジジ　ふたり合わせて

ヒッヒ　ジジヒッヒです。

ヒッヒ　……息びったりじゃん。

ヒッヒ　「名前が井戸の想ひついたらね。

ヒッヒ　すくなくないっ?」これすくなくないっ?

ヒッヒ　なかなかないよね。こんなに息びったりになれるっ?

ヒッヒ　うん。

ヒッヒ　その、結婚するかもって相手のひとともこんな感じしてっ?

ヒッヒ　だっつてずっと気になってっ?。

ジジ　……まあ、仲いいよ。

ヒッヒ　漫才できるっ?

ヒッヒ　なんで漫才?

ヒッヒ　ジジが漫才って言い出したんじゃん。

ヒッヒ　そうだった。そうだった。

ヒッヒ　漫才できるっ?

ヒッヒ　漫才……まあ、できる、かも。しないけど。

ヒッヒ　いいねえ。そういう誰かとめぐり会えたんだねえ。

ヒッヒ　そうだね。

ヒッヒ　いやー、めでたい。乾杯だ。ほれ、乾杯しよ。

ヒッヒ　まだ飲むの?

ヒッヒ　当たり前でしょ。かんぱーい。

ヒッヒ　かんぱーい。

はじめて

ピッピッ あ、

ピッピッ うん、

ピッピッ 初めてしたのいつっ？

ピッピッ ブッー(吹き出す)

ピッピッ っ

ピッピッ 初めてした「っって……

ピッピッ セクシヨン。

ピッピッ セクシヨン。

ピッピッ セックス。

ピッピッ あ言った。

ピッピッ ねえっいつっっ。

ピッピッ ええー、なんでそんな話になんの？

ピッピッ 教えてよっっ。わたしも教えるからっっ。

ピッピッ 女子か。

ピッピッ 女子だよ。

ピッピッ 女子だな。

ピッピッ ねえっいつっっ。

ピッピッ ええー、っ言っのっ。

ピッピッ 教えて教えて。

ピッピッ え、初めてっっ。いまのひとっ。それとも、初戀的なやつっ。

ピッピッ 初戀的なやつ。

ピッピッ じゃあ、っ言っのっ。

ピッピッ えっっ。普通。

ピッピッ えーわたしは高ー。

ピッピッ あ、あっさり言っね。

ピッピッ うん。

ピッピッ 相手は？

ピッピッ えー、555歳くらいの高(校)の教師で(……

ピッピッ わー！ もっいいもっいいもっいいもっいい！

ピッピッ えっっ。

ピッピッ なんか危ないにおいがするから！

ピッピッ いや別に普通だっ。

ピッピッ 訊いたわたしが悪かった！「ごめん！ もっいい！

ピッピッ なんで？ 別に全然危険じゃないよ。

ピッピッ いいから！

ピッピッ じゃあ次ジジの番ね。

ピッピッ え、……言っのっ。

ピッピッ そりゃそうでしょ。わたしだっって言ったんだし。

ピッピッ ……わたしは、……中3。

ピッピッ わ！ 早い！ 大人！ え、相手は？

ピッピッ せ、先輩、だったひと。

ピッピッ だったひとっ。

ピッピッ 高校生だったから、向「っ。

ピッピッ ああ。え、どんなひととどんなひとっ。

ピッピッ 生徒会の、

ピッピッ 生徒会！

ピッピッ 会長だったひと。

ピッピッ 会長っっ。なにやっつてんだアンタっっ。え、どっちから告っつたのっ。

ピッピッ っ、向「っ。

ピッピ。 おいお前マジぶざけんなよ。

ジジ。 あ？ やんのか？

ピッピ。 ア？ なにキレてんだよ。

ジジ。 おめーが先にキレたんだろうがよ。

ピッピ。 おめーがぶざけたこと言っからたらうがよ。

ジジ。 アあ？

ピッピ。 アアあ？ やんのかコソ。

ジジ。 上等だよ。

ピッピ。 表出ろよ。

ジジ。 表つてどつちだよ。

ピッピ。 右だよ。

ジジ。 右ア？

ピッピ。 外だよ。

ジジ。 いやだよ。

ピッピ。 出ろよ。

ジジ。 なんでだよ。てめーが出る。

ピッピ。 さけんなてめーが出る。

ジジ。 ……じゃ出るわ。

ピッピ。 おお。

ジジ、田へ行くつとすめる。

ジジ。 なんでおめー出ねえんだよ。

ピッピ。 ア？

ジジ。 アじゃねえよてめーも出ろよ。

ピッピ。 ざけんな。

ジジ。 ぶざけてねえわ。お前も出る。

ピッピ。 おア？

ジジ。 あア？ なんだテメエ。

ピッピ。 お？ やんのか？ やんのかコソ。

ジジ。 上等だよ。

ピッピ。 表出ろよ。

ジジ。 表つてどつちだよ。

ピッピ。 右だよ。

ジジ。 右ア？

ピッピ。 外だよ。

ジジ。 いやだよ。

ピッピ。 出ろよ。

ジジ。 これさつきもやっただらうがよ。

ピッピ。 あ？ そりゃどつちのセリフだテメエ。

ジジ。 どつちのセリフとかねえよ。

ピッピ。 るせえハゲ。

ジジ。 ア？ 誰がハゲだよこの。

ピッピ。 お前だよタコ。

ジジ。 なんだこのフタ。

ピッピ。 カス。

ジジ。 クソ。

ピッピ。 便器女。

ジジ。 誰が便器女だコソ。

ピッピ。 おめーだよ便器。

ジジ 55歳。
ピッピ んだよ。
ジジ 年増好き。
ピッピ 愛してたんだよ当時はちゃんと。
ジジ 愛とか言っくなカス。
ピッピ あア？
ジジ なんだよ初めての相手が55って。
ピッピ 先生だよ。
ジジ うわりアル。
ピッピ 化学の。
ジジ なに教師とやってんだよ。
ピッピ なに生徒会長とやってんだよ。
ジジ 元だよ。元生徒会長だよ。
ピッピ 知るかアホ。
ジジ なんだよ化学の先生って。なんのケミストリー起こしてんだよ。
ピッピ 担任だったんだよ。
ジジ 担任となにやってんだよバカか。
ピッピ 本気で好きになったんだよ。
ジジ かわいいな。
ピッピ かわいかったんだよ。
ジジ 純粹か。
ピッピ 純粹だったんだよ。
ジジ それで、そのひととはどうなったんだよ。
ピッピ 奥さんいたからなんだかんだあって別れた。
ジジ 不倫かよ。
ピッピ 純愛だよ。

ジジ 自分で言うなよ。
ピッピ でもまあ、不倫だよ。いま思えば。
ジジ いつ思っても不倫だよ。
ピッピ 失敗したなー。
ジジ 失敗したの？
ピッピ えーだってなんか、
ジジ まあ、
ピッピ 成功してくない？
ジジ まあ、それは、うん。
ピッピ わたしもジジみたいに生徒会長とかがよかつたなー。
ジジ 生徒会長うそだって。
ピッピ うそー。ほんとに？
ジジ ほんとに。ほんとにうそ。
ピッピ なにうそついてんだよ。マジぶざげんなよ。
ジジ あ？ やんのか？
ピッピ やんないよもう。飽きたよ。
ジジ 飽きたね。
ピッピ うん。

ピッ。ピッ。で実際はじめての相手は誰なの？

シジシジ えもうよくないその話。

ピッ。ピッ。うん、もついいけど。

シジシジ あでもそういうのじゃない、純粹な初恋っていつ？

ピッ。ピッ。はじめて「すきー」ってなったの、って「ん？」

シジシジ そうそう。

ピッ。ピッ。あー、わたしは……………

シジシジ ……………。(シジも考えている)

ピッ。ピッ。テレビだ。

シジシジ テレビ？

ピッ。ピッ。チャダ。

シジシジ チャダ？

ピッ。ピッ。知らない？

シジシジ 誰それ。

ピッ。ピッ。歌手。

シジシジ 歌手。

ピッ。ピッ。3歳くらいのとときに。チャダ&ミスティっていう、なんか男女の歌うたうひ

とたちがいて

シジシジ 知らない。全う然知らない。

ピッ。ピッ。なんか1曲だけ出したのかな、ユニットみたいな感じだったんだと思うけど。

シジシジ はー。

ピッ。ピッ。なんだっけ、サマータイムなんかかみたいな。

シジシジ 知らない。

ピッ。ピッ。サビがなんかオーマイサマーイみたいな。

シジシジ 知らない。

ピッ。ピッ。チャダはバンドナ巻いてて。

シジシジ 知らない。

ピッ。ピッ。カツコよかったんだよね。当時、バンドナっていうの知らなくて。

シジシジ まあ、3歳ならねえ。

ピッ。ピッ。頭になんかかっこのいいの巻いてるひとがいる！って思って。

シジシジ チャダっていうなら、巻いてたのターバンなんじゃない？

ピッ。ピッ。え、バンドナだったよ。

シジシジ バンドナって何語？

ピッ。ピッ。え、知らない。それ言つたらターバンも何語？

シジシジ インド語じゃない？

ピッ。ピッ。インド語ってあんの？

シジシジ 知らないけど。ヒンディー語？

ピッ。ピッ。あー。どういう意味？

シジシジ え。意味とかあんの。

ピッ。ピッ。あるでしょ。

シジシジ え、帽子とかじゃないの。

ピッ。ピッ。あー。

シジシジ 帽子じゃないか。

ピッ。ピッ。バンドナって意味じゃない？

シジシジ えじゃあバンドナでよくない？

ピッ。ピッ。そっか。

シジシジ どっちもバンドンってつくね。

ピッ。ピッ。そっだね。そうじゃないよ。チャダだよ。

シジシジ チャダだった。

ヒッピ カッコよかったんだよねえ、チャダ。

ジジ ふーん。

ヒッピ でもその一曲だけでテレビに出なくなった。

ジジ だらうねえ。

ヒッピ それでわたしの初恋はおしまい。

ジジ 切ない。のかどうなのかようわからん。

ヒッピ 淡いよね。

ピッピ ジジはどなの？

ジジ えー、わたしは、ベタだけど、幼稚園かなあ。

ピッピ 幼稚園か。

ジジ もう名前も忘れちゃったけど、おんなじ組のおとこの好きになった気がする。

ピッピ そういつのつてき、やっぱり顔なのかな？

ジジ 顔じゃない？ あんただって顔でしょ、チャダ。

ピッピ うん。あー、でもわたしたのは、バンダナかもしれないけど。

ジジ そっか。

ピッピ うん。

ジジ まあでも見た目ってことじゃない？

ピッピ だね。

ジジ だからわたしも、そのおとこの二を見て、あ、なんか好き！ ってなったんだと思っつよ。

ピッピ なんかしだ？

ジジ なんかつて？

ピッピ デートみたいのとが。

ジジ してないよ。するわけないじゃん。

ピッピ そっか。

ジジ だいたいデートっていつ概念自体ないよまだ。

ピッピ そっかー。でも、仲よくなりたいなーみたいのは、

ジジ あったかもしれないけど、よく覚えてない。

ピッピ そっか。

ジジ なんにもなかったんじゃない？ あったらもつと覚えてるの？

ピッピ だね。

ジジ うん。

ピッピ でもわたしチャダとはなんにもなかったよ。

ジジ そりやそっでしょ。

ピッピ ……すきっていう気持ちはさ、

ジジ ん？

ピッピ たぶんなんかこう、「気持ち」、なんだよね。

ジジ ？？？

ピッピ うまく言えないな。

ジジ なんかわかる、かも。

ピッピ 想い、っていつのかな。

ジジ うん。

ピッピ 相手とどうつうしたいっていつのは、たぶん、後付けでき。後付けっていつのかどうかわかんないけどさ。

ジジ うん。

ピッピ すきですきでたまらなくなつて、どうすればいいかわかんなくて、それで、

ジジ 手をつないだりするんだらうね。

ピッピ そっそっそっ。

ジジ チャダもそうだったの？

ピッピ チャダもそうだった。たぶん。

ジジ 本気だったんだね、チャダ。

ピッピ 本気だったんだよー。

ジジ わたしもそうだったのかな。

ピッピ そうだったんじゃない？

ジジ そっかー。

ピッピ。よく考えたらしい話じっくりしたことなかったね。

ジジ。そうだね。

ピッピ。中学の途中くらいからだんだん合わなくなったもんね。

ジジ。まあねえ。

ピッピ。しょうがないか。

でもほんと、ひさしぶりに会えてうれしい。

ピッピ。わたしも。

ジジ 別にいいのに。

ピッピ いやいやいや。

ジジ まあ、あんたがそう決めたんなら、

ピッピ うん。

ジジ 止める権利はないしね。

ピッピ 権利って。

ジジ なに。

ピッピ いや。

ジジ でもまあ、終わりがあってわかっておくことは、大事な気がする。

ピッピ そうだね。

ジジ うん。たぶんさ、終わりがあから、わたしの部屋はこんななんだ。

ピッピ は？どゆこと？

ジジ わたしはこの部屋が大好きなんだけど、

ピッピ うん。

ジジ この部屋はわたしの好きなもので溢れてて、でもまだまだたくさん好き

ピッピ なものでいっぱいにしてたくて。

ピッピ うん。

ジジ 永遠に抗ってるんだ。

ピッピ よくわかんない。

ジジ わたしがわかってればいいよ。

ピッピ うん。

ジジ いつまでもこんな感じでダラダラと過ごせたらいいのに。

ピッピ ああーわかるー。

ジジ お酒飲みながら、くだらない話しながら。

ピッピ え、くだらない話とかしてたくない？

ジジ え、ピッピ来てからずっとくだらない話しかしてたくない？

ピッピ そうっ？

ジジ うん。

ピッピ でも半分わかるけど、それだけじゃだめってこともわかってるんだ。

ジジ うん。

ピッピ だからピッピは旅に出ようと思ったんだねえ。

ジジ ……。

ピッピ どしたの？

ジジ なんでもない。

ピッピ なに。

ジジ いや、いなくなんのかなあと想着って。

ピッピ わたし？

ジジ うん。

ピッピ そりゃ、いつかはいなくなるよ。

ジジ ほんとにっ？

ピッピ ほんとに。

ジジ そっかあ。

ピッピ いつまでも「厄介にはなれないからな。

おとこのこと

ジツ
よし、じゃあ、寝ようか。

ヒツ。 うん。

ジツとヒツ。寝る支度を始める。

ヒツ。ヒツが先に寝る。

ジツ
電気消すよ。

ヒツ。 うん。

電気を消す。

暗い。

ヒツ。 ……ねえ。ジツ。寝た？

ジツ
起きてるよ。

ヒツ。 あのみ、

ジツ
なに？

ヒツ。 わたし、明日、出ていくよ、11の部屋。

ジツ
……そっか。

ヒツ。 うん。

ジツ
うん。

ヒツ。 ……なんでって訊かないの？

ジツ
訊かないよ。

ヒツ。 そっか。

ジツ
訊いてほしい？

ヒツ。 いや、別に。

ジツ
でしよ。

ヒツ。 うん。

ジツ。 ヒツ。ヒツが決めたことだから。

ヒツ。 うん。

ジツ
……どこに行くの？

ヒツ。 わからない。けど………とりあえず北かな。

ジツ
北！

ヒツ。 北。

ジツ
すげえアバウトだ。

ヒツ。 なんかさあ、あてのない旅ってとりあえず北に行ってるイメージない？

ジツ
いや別に。

ヒツ。 そっか？

ジツ
うん。

ヒツ。 まあ、とりあえず北に行くよ。

ジツ
なんかさあ、その、二度と戻らない旅してるひとたちの集団みたいな

いないの？

ヒツ。 いるみたいだけど、どこで会えるのかわかんない。

ジツ
そうなんだ。

ヒツ。 うん。

ジツ
……二度と戻らないのかあ。

ヒツ。 二度と戻らないのだあ。

ジツ
そっかあ。

ヒツ。 そっかあ。

ジツ
……。

ヒツ。 ……。

おとこのこと

ジツ
なごっ

「……やつは改まって言いたいじゃないよ。」

「言えぬ……」

「守(守)の手を二度も食つか……」

「あつする……」

「お返しだ……」

「きやははははすいませんすいません。くすぐすたい」

「くすぐりながら」

「くすぐりながら」

「くすぐりながら」

「くすぐりながら」

「ちめて」

「わたしも」

「……」

「(わざとらしいあくびをして)ふあ、あ、笑い疲れちゃった。そろそろ寝よ。」

「わたしじゃん笑わせられてたの。」

「笑わせ疲れちゃった。」

「ねえ」

「……ない」

「手つないで寝よ。」

「……うん」

「おやすみ」

「おやすみ」

しばらく沈黙。

ジツ
……」

「……」

「寝た？」

「……」

「……」

「……」

「……わたしね……子どものころね、」

「……」

布団に入ったら、いつともピッピがいて。いいことがあった日も、かなしいことがあった日も、いつともそばでわたしの話を聞いてくれて。

でも、おとなになっていくにつれて、ピッピと話す回数もだんだん減っていく。

はじめはそのことを少し淋しく感じたけど、そのうちだんだん淋しくなくなっていく。

いつの間にか夜は、ピッピとの時間だったことも忘れていく。

……

そうしてわたしはきちんとおとなになっていったんだ。

明日わたしは結婚するけど、大事ななにかをひとつ失うような気がする。

ピッピがわたしの前からいなくなるんじゃないかと、わたしがピッピの前からいなくなるんだ。

なんでいつも「つなんだろう。なんぞうまくいかないんだろう。」

全部を大事には、できないもんだね。

……

「わたしね、明日、結婚するんだよ。すてきななおとこの」

「……」

「ピッピ、みたいな、すてきななおとこの」

「……」

「……」

ピッピ
……。

ジジ ……わたしも寝るね。

ピッピ ……。

ジジ おやすみ。

#13 旅立ち

目が覚めると、ピッピはいなくなっていた。

ジジ ピッピ……。

手元には、ピッピがくれたバナナが転がっている。
ジジはバナナを食べる。

ジジ あはは……。……あまいなあ……。

おわり